繊維ニュース　2007年4月20日　掲載

大正紡績

# 川中との連携強化

## 素材バリエーション拡大

野田社長

大正紡績の野田和之社長は、今期からスタートした新中期経営計画に関して①川中企業との連携②商品開発の強化――を重点課題に掲げ、2009年度に売上高24億円を目指す方針を示した。

（11面に関連記事）

野田社長は、新中計ではこれまで続けてきた取り組み型の事業運営を一段と深耕するとして「従来はアパレルとの連携が中心だったが、今後は川中企業との取り組みを強化することが現中計の中心テーマになる」と話す。高い独自技術を持つ川中企業と生産チームを結成し、商品の高付加価値化を進める考えだ。その一例として、5月のジャパン・クリエーション（JC）には、これまでも協力関係にある川中企業を中心に29社とコラボレーション出展する。

野田社長は、「大正紡績は、国内生産を守ることが社に与えられた使命なので、そのためにも川中企業との連携が重要になる」と話す。

商品開発の強化に関しては、とくにオーガニック素材など環境に優しい素材や、現在研究を進めているベンガラ染めなどの岩石染めによる先染め素材、カシミヤ混など獣毛混素材やバナナなど植物原料繊維素材の開発を強化する。また、得意の高級差別化原綿使い商品に関しても、マダガスカル綿や新たに採用したギザ87使い「ロゼッタミーヤ」など商品バリエーションを充実させる方針だ。